



ホトケドジョウ

1、2020年モニタリング報告ー3

葦毛湿原ではカキラン、トキソウ、モウセンゴケ、ノカンゾウ、サギソウ等の夏の花が終わりました。今年は、今までM地点でしか見られなかったコオニユリがL・Y地点でも開花しました。コオニユリは植生回復作業を行ってから環境がある程度安定した3年後位に復活するようです。現在はシラタマホシクサが咲き、もうすぐ満開を迎えそうです。



L地点のコオニユリ

今年は7月の梅雨に大量の雨が降り湿原を潤していましたが、8月は雨がほとんど降っていません。本来なら地表を水が流れているところも乾燥して干上がっています。夏の花は例年より元気がなく少なめでした。

1) H地点

H地点は2018年度に木の伐採と抜根を行いました。右写真上は抜根後1年目の上流部の状況です。チャートの礫がありますが、水量が多く地表には水の流れが見えます。イヌノハナヒゲ、ミズギボウシ等が発芽しましたが植物の量は多くありませんでした。右写真下は抜根後2年目の上流部の状況で水量の多い所にイ



H地点上流部抜根作業後1年目(2019年7月14日)



H地点上流部抜根作業後2年目(2020年7月15日)

ヌノハナヒゲが大量に発芽し、大きな群落になっています。昨年と比較すると大きく異なっていますが、木道の右手側もイヌノハナヒゲの大群落になっています。

下写真は中流部の抜根作業後1年目と2年目の写真です。1年目はチャートの礫が全体に目立つ状態でしたが2年目はイヌノハナヒゲが木道沿いで大きな群落になっており、ヌマガヤやミズギボウシも見られます。



中流部抜根作業後**1年目**（2019年7月14日） 抜根作業後**2年目**（2020年8月27日）

下流部ではイヌノハナヒゲが優占せずアブラガヤを中心とした群落が見られます(右写真)。

この群落の上流部(右側)はアブラガヤ、下流部はアオコウガイゼキショウ、イ、カヤツリグサの仲間、サワシロギク、マアザミ等が開花しています。



下流部抜根作業後**2年目**（2020年8月27日）



イ（イグサ）



カヤツリグサの仲間、イヌノハナヒゲ、アブラガヤ



アオコウガイゼキショウ



サワシロギク

2、第5回葦毛湿原再生フォーラム

「東海地方にどれほどの湧水湿地があるのか？」

題名：第5回葦毛湿原再生フォーラム

「東海地方にどれほどの湧水湿地があるのか？—その分布と特徴—」

とき：10月3日(土)開会13時55分～16時30分（開場13時30分）

ところ：豊橋市民センター カリオンビル6階多目的ホール（松葉町2丁目63）

講師：富田啓介（愛知学院大学准教授）

演題：「東海地方にどれほどの湧水湿地があるのか？—その分布と特徴—」

定員：39名（往復はがきによる事前申し込み）参加料：無料

問合せ：豊橋市文化財センター（☎0532・56・6060）

葦毛湿原は天然記念物としての指定地が 32,332 m²あり、湧水湿地としては全国有数の規

模だと言われています。今回は、東海地方で特徴的な湧水湿地に焦点を当て最新の研究成果を報告していただきます。



第5回 葦毛湿原再生フォーラム 東海地方にどれほどの 湧水湿地があるのか？

— その分布と特徴 —

参加料 無料
定員 39名
(事前申込み)

2020.10 | 3^土 開場 13:30~



豊橋市民センター(カリオンビル)
6階多目的ホール

愛知県豊橋市松葉町二丁目63

申込み方法 往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を記載の上(1枚に4名まで)、返信先を明記し、9/23[㊤](必着)までに、豊橋市文化財センター(〒440-0897 豊橋市松葉町3-1)に送付してください。定員を超えた場合は抽選します。



講演者

富田 啓介
(愛知学院大学准教授)

Program	
13:30	開場
13:55	内容説明・事務連絡
14:00~14:30	「葦毛湿原の大規模植生回復作業」 ● 賛 元洋 / 豊橋市文化財センター
14:30~14:40	休憩
14:40~16:10	「東海地方にどれほどの湧水湿地があるのか？ その分布と特徴」 ● 富田 啓介 / 愛知学院大学准教授
16:10~16:30	質疑応答
16:30	終了



※新型コロナウイルスの影響により、講演会を中止する可能性があります。その場合参加者にはご連絡いたします。

主催 ● 豊橋市教育委員会 問合せ ● 豊橋市文化財センター TEL:0532-56-6060